

# ISSB基準のポイントと アナリスト・投資家への期待と課題

小 森 博 司

〔 国際サステナビリティ基準審議会  
(ISSB) 理事 〕

井 口 譲 二 CMA

〔 日本証券アナリスト協会  
サステナビリティ報告研究会座長 〕

## 目 次

第Ⅰ部 ISSB基準：より良い意思決定のための、  
より良い情報（小森博司）

1. ISSB基準が投資家と企業の対話を促進
2. 真にグローバルな開示ベースライン
3. S1・S2に基づく開示

第Ⅰ部 ISSB基準：より良い意思決定  
のための、より良い情報  
(小森博司)

### 1. ISSB基準が投資家と企業の対話を 促進

ISSB（国際サステナビリティ基準審議会）では、約18カ月間の審議の結果、最初のIFRSサステナビリティ開示基準（以下、ISSB基準）である、IFRS S1号「サステナビリティ関連財務情報の開示に関する全般的な要求事項」（以下、S1）およびIFRS S2号「気候関連開示」（以下、S2）を2023年6月26日に公表した（注1）。本日は、その方向性と目的、そして企業、アナリスト・投資家に期待することをお話したい。

ISSBはIFRS財団の傘下で、IASB（国際会計基準審議会）とお互いの独立性を保ちながら基準設

第Ⅱ部 インタビュー（聞き手 井口譲二）

1. ISSBとは何か
2. ISSB基準を知る
3. アジェンダ協議への期待
4. 投資家・企業へのメッセージ

定を行っている。6月26日にロンドンでISSB基準の公表イベントが開催されたが、ISSB議長のエマニュエル・ファベールが基調講演で繰り返し強調したのが“*Our language is an accounting language*”というフレーズだ。このフレーズこそが、ISSB基準の目的を表現している。従来、資本市場は、サステナビリティに関して多数の基準やイニシアティブが存在する、いわゆるアルファベットスープという状況にあった。私の前職のGPIF（年金積立金管理運用独立行政法人）が2017年に調査した時点で、既に任意の基準やイニシアティブが400以上も乱立しており、市場全体として効率の良い状態ではなくなっていた。過去10年から30年以上にわたり、開示基準の策定やイニシアティブに貢献してきた方々への敬意をいいただきながら、市場から問題の解消を求められて設立されたのがISSBである。

（注1） <https://www.ifrs.org/issued-standards/ifrs-sustainability-standards-navigator/>

（本稿は2023年7月21日に日本証券アナリスト協会にて収録し8月に動画配信を開始した第1回の要旨である。）